

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



すべての災害は
防ぐことができる

★ 今月の事故 ★

1. 事故の概要（就業中）

12尺三脚を使用して松の剪定をしていた際、三脚から地面（コンクリート舗装）に転落する事故が発生した。発注者が119番通報し、ドクターヘリで病院へ搬送されたが、治療の甲斐なく、その後お亡くなりになられた。

2. 事故の原因

松がある場所が地面上から高さのある植木場であったため、会員は三脚を地面に立て、松の幹にロープで結束して、三脚の7段目に昇って作業をしていたが、その際に腰から落ち、頭部を地面に打った。安全帽と安全帯は未装着であった。

3. 事故後の対応及び再発防止策

【センターの事故後の対応】

令和3年7月15日	事務局内で緊急安全対策会議開催 正副理事長会議開催
令和3年7月19日	安全・適正就業委員会開催
令和3年7月26日	理事会開催

【センターの再発防止策】

令和3年7月14日	全職員へ会員死亡の旨連絡し、会員へ「安全声掛け」を指示
令和3年7月15日	センター役員へ事故状況を報告 事務局から植木職群班長へ注意喚起の電話をし、班長から植木班の各会員へ周知
令和3年7月16日	携帯電話所有の会員750名へ注意喚起メールを発信 注意喚起通知を就業報告書に添付し、周知するとともに、同通知を全事業所へ提示

8月以降当面の間、以下の事故防止策を実施。

- ① 安全作業チェックシート提出⇒植木就業会員全員が全ての就業において、ヘルメット・安全ベルトの着用の有無、三脚類の固定状態、4mを超える樹木手入れの有無、などにチェックを入れ事務局へ提出する。
- ② 安全見回り隊による現場パトロール⇒理事及び安全適正就業委員が週1回植木就業現場を見回る。
- ③ 職群班ごとの朝礼実施又は職群班会議の集中開催⇒植木職群班長が随時に朝礼又は班会議を実施する。

【連合の再発防止策及びセンターへの指導】

県内各センター宛て、死亡事故の発生と安全就業について徹底を通知した。
 事故発生センターに対して、事故の発生原因と再発防止について検討し、速やかに具体的対応を講じるよう指導した。

4. 全シ協から

この事故については、剪定作業で最も欠かせない安全帽、墜落制止用器具（安全带）を装着していなかったこと、ひとりでの作業のため、どのように事故にあったかがわからないこと、また、脚立については、地面同様の環境（例えば足場の設置など）を作っていたか、複数の要因が重なって起きたと考えられますが、やはり、安全帽、安全带を装着していれば、重篤化を防げていた事故でした。剪定作業は高さに関わらず安全帽を装着することは必須ですが、その他の作業においても安全帽を着用し頭部を守ることで重篤化しないようセンターみなさんで事故が起きない体制を構築してください。

令和3年10月（令和3年度）事故速報

(1) 重篤事故

10月は、2件の重篤事故報告がありました。10月までの累計で比較してみると、令和2年度の23件と比して令和3年度は14件と9件減少しています。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では令和2年度の17件と比して9件と8件の減少となっており、就業途上については、令和2年度の6件と比して5件と1件の減少となっています。

10月報告分までの累計

令和3年度累計	就業中・就業途上	件数	内 訳				令和2年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	9(1)	6(1)	3(0)	9(1)	0(0)	就業中	17	8	9	17	0	
就業途上	5(1)	2(1)	3(0)	3(1)	2(0)	就業途上	6	5	1	3	3	
計	14(2)	8(2)	6(0)	12(2)	2(0)	計	23	13	10	20	3	

前年度比 60.9% ()は、当月報告分です。

10月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全帽	安全带	交通手段
13	男 79歳	就業中 (死亡)	12尺三脚で松剪定していた際、コンクリート地面に転落。重症頭部外傷。	×	×	—

14	男 81 歳	就業途上 (死亡)	ゴルフ場での仕事へ70ccバイクで向かう途中、中央分離帯に衝突して転倒	—	—	バイク
----	--------------	--------------	-------------------------------------	---	---	-----

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

10月は、就業中の事故18件、就業途上の事故4件と、合計22件であり、昨年度同月の23件と比して1件の減少となっています。また、男女別では、男性は4件の減少となっており、女性は2件の増加となっています。

10月までの累計で比較してみると、昨年度の148件と比して、本年度は136件と12件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は104件で8件の減少となっており、就業途上は32件で4件の減少となっています。男女別では、男性は15件の減少となっており、女性は3件の増加となっています。

令和3年度10月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)		
		10月	累計	10月	累計	10月	累計	10月	累計	
就業中	植木・樹木の剪定等	6(5)	41(45)	6(5)	41(44)	0(0)	0(1)	78	74	
	除草作業	7(4)	25(19)	7(3)	22(15)	0(1)	0(4)	74	75	
	屋内・屋外清掃作業	2(5)	18(26)	1(1)	7(12)	1(4)	11(14)	73	74	
	その他	3(3)	20(22)	1(3)	11(17)	2(0)	9(5)	75	76	
	計	18(17)	104(112)	15(12)	81(88)	3(5)	23(24)	75	75	
就業途上	交通手段	徒歩	2(2)	10(11)	1(1)	3(6)	1(1)	7(5)	79	78
		自転車	1(2)	12(18)	1(2)	5(12)	0(0)	7(6)	—	79
		バイク	1(1)	8(5)	0(0)	4(2)	1(1)	4(3)	82	73
		自動車	0(1)	2(2)	0(1)	2(2)	0(0)	0(0)	74	72
		計	4(6)	32(36)	2(4)	14(22)	2(2)	18(14)	79	77
合計		22(23)	136(148)	17(16)	95(110)	5(7)	41(38)	76	75	

()は令和2年度同月の発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)。

※ シルバー団体傷害保険の支払いが確定した事故については、速やかに「シルバー団体傷害保険に係る事故件数等報告書」により報告し、報告漏れがないようお願いします。

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故(休業1ヶ月以上)

8月は仕事の型別では、「清掃の職業」3件、「製品製造・加工処理の職業」2件「社会福祉の専門的職業」「家庭生活支援サービスの職業」「飲食物調理の職業」「施設・ビル等の管理の職業」「農業の職業」「採掘の職業」がそれぞれ1件あり、合計11件でした。前年同月の10件と比較して1件の増加となっています。

8月までの累計で比較してみると、昨年度の41件と比して、9件の増加となっています。

また、男女別では、男性は23件で同数となっており、女性は27件で9件の増加となっています。

なお、8月に死亡事故はありませんでした。

令和3年度8月分

仕事の型(中分類)	中分類コード	事故数(件)				男性(件)				女性(件)				平均年齢(歳)	
		8月		累計		8月		累計		8月		累計		8月	累計
社会福祉の専門的職業	16	1	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	2	(0)	81	78
商品販売の職業	32	0	(0)	3	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	3	(0)	—	67
販売類似の職業	33	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	—	74
家庭生活支援サービスの職業	35	1	(1)	7	(2)	0	(0)	1	(0)	1	(1)	6	(2)	76	70
介護サービスの職業	36	0	(0)	0	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(3)	—	—
生活衛生サービスの職業	38	0	(0)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	—	—
飲食物調理の職業	39	1	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	2	(0)	71	74
施設・ビル等の管理の職業	41	1	(0)	2	(0)	0	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	79	78
その他のサービスの職業	42	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	—	74
農業の職業	46	1	(1)	2	(1)	1	(1)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	73	69
製品製造・加工処理の職業	54	2	(1)	2	(3)	0	(0)	0	(0)	2	(1)	2	(3)	73	73
機械組立の職業	57	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	—	78
自動車運転の職業	66	0	(0)	2	(1)	0	(0)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	—	66
採掘の職業	74	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	70	70
運搬の職業	75	0	(0)	2	(2)	0	(0)	2	(2)	0	(0)	0	(0)	—	67
清掃の業務	76	3	(1)	8	(7)	1	(0)	3	(3)	2	(1)	5	(4)	74	73
包装の職業	77	0	(1)	1	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	1	(0)	—	75
その他の運搬・清掃・包装等の職業	78	0	(5)	13	(19)	0	(5)	10	(15)	0	(0)	3	(4)	—	73
計	—	11	(10)	50	(41)	3	(7)	23	(23)	8	(3)	27	(18)	71	71

() は令和2年度同月の発生件数

令和2年4月以降に発生した「派遣労働会員の業務災害(休業日数4日以上又は死亡)」、「派遣労働会員の通勤災害(休業日数4日以上又は死亡)」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害(業務・通勤ともに)が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。

(令和2年4月22日付 2全シ協発第12号により通知済)

東京都シルバー人材センター連合における安全就業の取組み

1 事業概要（令和2年度実績）

(1) センター数	58 団体（国庫補助 58 団体）
(2) 会員数	79,816 人（うち派遣 7,451 人）
(3) 粗入会率	2.1%
(4) 就業実人員	60,848 人（請負・委任 60,116 人、派遣 3,082 人）
(5) 就業率	76.2%（請負・委任 75.3%、派遣 41.4%）
(6) 就業延人員	7,452,737 人日（請負・委任 7,224,748 人日、派遣 227,989 人日）
(7) 受注件数	179,857 件（請負・委任 178,186 件、派遣 1,671 件）
(8) 契約金額	32,285,943 千円（請負・委任 30,980,116 千円、派遣 1,305,827 千円）

2 過去5年間の事故件数

項目	傷害事故件数（件）			死亡 事故 人数	度数率	強度率	賠償責任 事故件数
	就業者中	経路途中	合計				
平成 28 年度	330	166	496	0	12.86	0.998	199
平成 29 年度	357	224	581	3	13.71	0.877	195
平成 30 年度	402	188	590	4	15.15	0.942	202
令和元年度	430	203	<u>633</u>	4	15.08	0.834	194
令和2年度	372	179	551	3	14.89	1.115	175

東京都シルバー人材センター連合（以下、「東京連合」という）における令和元年度の傷害事故件数は 633 件と過去最悪の結果となった。令和2年度は 551 件に減少しているが、その要因が新型コロナウイルスの影響による就業機会減少であることを考慮すると、決して楽観視できる数値ではなく、着実な安全対策の継続が不可欠である。

3 安全就業対策の方針及び計画

東京連合では各センターの担当職員及び安全管理委員を中心に、連合一丸となって安全就業推進を一層強化していくため、平成27年に下記のとおり安全就業の基本理念として「安全宣言」を設定し、この実現に努めている。

【安全宣言】

東京都のすべてのシルバー人材センターは、「安全はすべてに優先する」との基本理念のもと、組織一丸となって、事故ゼロを目指す。

1. 危険または有害な作業を内容とする業務は受注しない
1. 事故の未然防止のために必要な知識・技能の情報を共有する
1. 事故の情報を分析し再発防止を徹底する

また、例年安全就業対策の重点項目を定めることにより計画の力点を明確化している。令和3年度は以下を重点と位置付けた。

- (1) 「安全就業基準（作業別含む）」の周知と遵守の徹底
経路途上の安全確保特に、自転車利用時の安全確保
- (2) 安全管理委員会の活動の活性化（傷害・賠償責任事故防止）
- (3) 事故分析と再発防止策の検討、会員への情報共有
- (4) 危険予知活動の実施
受注時・作業開始時のKY活動の徹底安全パトロールの実施

これらを踏まえて、今年度東京連合では以下の安全対策事業を計画・実施している。

- (1) 安全就業パトロール指導員による巡回（安全就業の推進、事故防止についての指導・助言）
- (2) 安全就業パトロール指導員による相談事業（月1回）
- (3) 安全就業推進連絡会議の開催
- (4) 事故の多い職種の安全対策の実施（屋内清掃作業、植木、除草等）
- (5) 「事故速報」等による事故情報・安全就業に関する情報共有・提供
- (6) チラシ等による安全就業の意識啓発
- (7) 研修の実施（新任安全管理委員、安全リーダー、新任安全就業推進員等）
- (8) 視聴覚教材等の貸出し
- (9) 自転車事故防止事業の実施
- (10) ブロック別安全就業の支援
- (11) シルバー人材センターの安全就業研修の出張支援

4 活動実績（令和2年度）

安全対策事業の中でも、特に研修実施に当たっては事故分析を基に発生要因別のテーマ設定を行うことで、事故防止に向けた実践的な内容となるように努めている。令和2年度東京連合で取り組んだものの中から、特徴的な以下の2事業を紹介する。

(1) 自転車安全利用講習会

一般財団法人日本自転車普及協会自転車文化センターから専門学芸員を講師に招き、都

内シルバー人材センターの会員を対象に2日間にわたり開催した。都内シルバー人材センターでの自転車事故の統計データに基づき、事故発生の原因分析を解説し、交通ルール違反の現状と会員の年齢や違反内容などの関連付けながら理解を深めた。



実技では、交差点や一般道での乗車を模した自転車シミュレーターによる危険予知や安全行動の模擬体験のほか、反応能力検査、視野範囲測定も行い、自己の身体能力の把握につなげた。



また、本研修は自転車事故の要因の一つである「ふらつき走行」の原因を理解してもらうため、会場内に自転車を持ち込み、乗車実習を行った。



一般的にふらつき走行は加齢による筋力の衰えが原因なので、即座に打てる対策はないと考えられがちである。

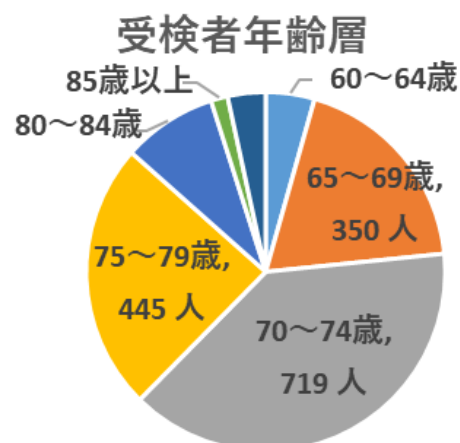
しかし、ペダルの踏み込み位置とハンドルとサドルの高さを変えることで、ふらつきの少ない安定した運転姿勢を作ることができる。実習ではハンドル等の高さを変えて比較乗車を行うことにより運転時の安定性を実体験してもらうことができた。

参加した会員からは「なぜふらつくのか、原因がよくわかった」、「センターに持ち帰って広めたい」などの感想があがった。

(2) 危険運転防止対策事業

シルバー人材センターでは機材運搬、移動など多くの場面で会員による自動車運転が行われているが、近年高齢ドライバーのペダル踏み間違い等による自動車事故に対する社会的な関心が一層高まっている。

この現状を踏まえて東京連合は、令和2年単年度の緊急対策事業として、ハンドルを握る会員が事故なく運転業務に就けるよう「危険運転防止対策事業」を実施した。



会員自身が運転特性について理解を深めるきっかけとなるように、都内シルバー人材センターの運転を行う会員 1,843 人を対象に運転適性検査(ペーパーテスト)を一斉実施した。

なお、当初の計画では、回答者(会員)がホールに集合し、集団回答・採点・解説を行う方式を予定していた。しかしながら新型コロナの感染拡大の影響を受け、開催方法を変更せざるを得ない状況となり、結果的に回答者個別に回収・採点・返却を行う方式へと大幅に変更することとなった。

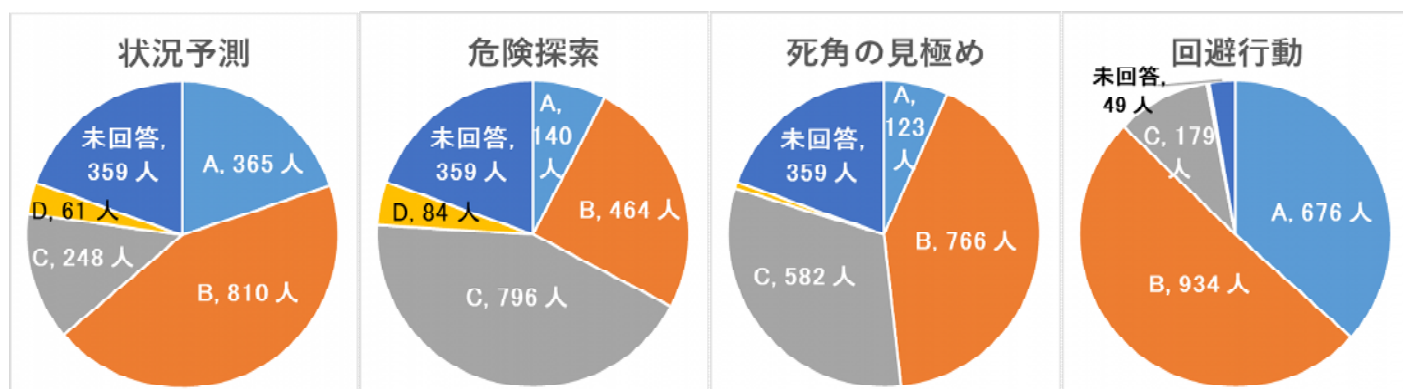
検査実施には市販の検査(以下3種セット)を使用した。

- ① 運転場面ごとに危険箇所を探し、状況に応じた安全運転ができるかを見る検査
- ② 性格傾向に関する設問を通じて、安全運転に影響を与える項目を認識する検査
- ③ 運転意識・態度に関する設問を通じて、自身の運転態度・意識を認識する検査

採点結果は4項目について、それぞれA>B>C>Dの4段階で表され、AまたはBであれば良好な結果とされている。

安全対策の重点項目にも掲げている「危険予知」に関係が深いという意味で、特に①の検査による危険感受性の集計結果を以下に示した。

結果としては全体的にAとBが占める割合が高く優秀であるが、一部「危険探索」については予想以上にCの割合が高かった。当該項目は、運転時に視野を広く保ち、どんなリスクが潜むのかを探る内容である。この結果からも事故防止の対策として、危険予知の目を養う(強化する)ことが必要であることが理解できる。



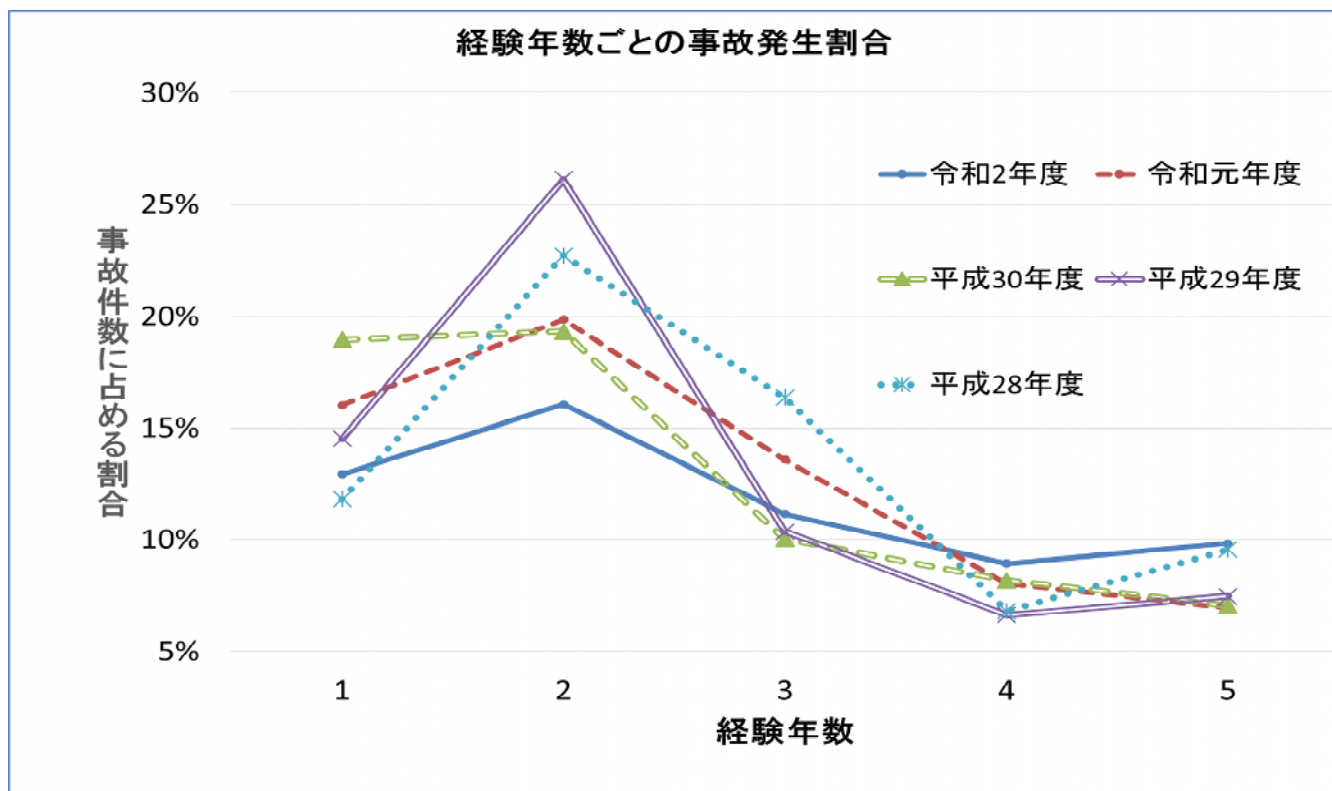
本検査は、あくまでペーパー上のことであり、実際の運転と比較すれば、危険探索や状況判断などにおいて視覚上の、あるいは感覚的なズレなどが含まれることはやむを得ない。しかしながらペーパー上という落ち着いた環境でも見つけられなかった危険箇所を、実際の運転時に瞬時に見つけ出すことは容易なことではない。また、免許を取得して何十年も経って、第三者から法令遵守意識や歩行者への安全面の配慮などを客観的に評されるという機会も少ない。

これらを踏まえると、本検査に取り組んでいただいた会員にとっては、検査を通じて自身の自動車運転とあらためて向き合う機会となり、シルバー会員のこれからの安全運転に向けた意識づくりに役立てたのではないかと考える。

今後は個々のシルバー人材センターに設置された安全管理委員会の活動等を通じて安全運転に向けた啓発に継続的に取り組んでいきたい。

5 今後の課題

安全担当が日々の事故データを扱う中で、たまたまベテラン会員の事故が続いたことを受けて、経験年数と事故の関連を調べた。当グラフは、過去5年に渡って傷害事故の発生件数と同一職種についての経験年数の関係を表したものである。



年度によって若干の数値のばらつきはあるものの、各年度に共通していることは経験2年目の会員の事故発生率が最も高いという点である。一概には言えないが、1年目の緊張感も、仕事に慣れ始める2年目頃には若干のゆりみを伴うこともあるのではないかと、あるいは任される仕事の範囲が広がり、注意が行き渡らず、結果的に事故につながることもあるのでは等、様々な状況が推測できる。

また、2年目を頂点として減少し続けているが、5年目で発生割合が上向いている傾向（微増ではあるが）が、複数の年度で見られたことにも注意が必要である。

これまで東京連合での安全研修計画は、新任会員に向けた研修体制に重きを置いてきたが、これらを踏まえると、2年目の会員に対して事故防止の研修・啓発実施を強化するなど、ある程度長期的な視野に立ち、経験年数や就業の継続状況に応じた研修カリキュラムを検討することがこれからの課題のひとつである。

シルバー人材センターでは70代を中心に多くの会員が長年にわたって就業に関わり続けることが通常であり、それは同時に長所でもある。会員が長く安全に働き続けていけるための安全就業の取り組みを心がけていきたい。

東京都シルバー人材センター連合様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

★ あなたの睡眠足りている？ ★

仕事から帰ってきたら、家のこともしなければならぬし、お酒や趣味など、自分の好きなこともしたい。ついつい時間が過ぎてしまい、睡眠時間を削ってしまっていないですか？

睡眠不足は、日常生活に大きく支障をきたし、ヒューマンエラーを引き起こしやすくなります。

あなたの睡眠の取り方を、この機会に見直してみましょう。

● あなたの睡眠は足りていますか？ ●

睡眠が足りないまま過ごすと、心身にさまざまな影響が出てきます。

- ヒューマンエラーを引き起こしやすくなる
- メンタル疾患につながりやすい
- 認知症や脳疾患のリスクが高まる
- 熱中症になりやすい

▲ 睡眠が足りているかチェック ▼

- 起きたときに疲れがないか？
- 日中の活動に差し支えがないか？

両方にチェックが入ればOK！

◆ 睡眠不足にならないために！ ◆

- 朝はカーテンを開けて光を浴びる
朝、光を浴びると、体内時計がリセットされ、約15時間後に眠気が出現するようになります。
- 夜のカフェイン摂取はやめる
カフェインには眠気覚ましの作用があり、4時間以上持続するため、眠りが浅くなってしまいます。
- 寝床でスマホやテレビ（ゲーム）をしない
夜間に強い光を浴びると寝つきが悪くなります。
(※ 出所 中央労働災害防止協会 「安全衛生かべしんぶん」より抜粋)

安全関係の頒布物のご案内

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

安全就業のためのチェックポイント



会員が安全に就業するための要点を、全カラー版でまとめたイラスト小冊子です。

A4判 32頁 (10部以上からの販売)
価格 税込 184円 (本体 168円+税)、送料実費

会員必携安全就業ハンドブック



安全就業の心得をはじめ、仕事別の安全対策などを分かりやすく解説したポケット版の会員必携ハンドブックです。
変形 B7判 (縦 12.5cm×横 7.6cm) 44 ページ
○全国版 (10部以上からの販売)
価格 税込 136円 (本体 124円+税)、送料実費

事故に学ぶ交通安全のポイント



交通事故の被害者にも加害者にもならず、いつまでも健康で”生涯現役”として活躍していただくため、事故事例に基づき、全カラー版でこの冊子を作成しました。

A4判 20頁 (10部以上からの販売)
価格 税込 220円 (本体 200円+税)、送料実費

この3冊は、安全就業の指針を示していますので、会員の皆さまお一人おひとりに、ぜひお持ちいただきたい頒布物です。

お問い合わせは 企画情報課宛、下記 FAX または電子メールでお願いします。

FAX 03-5665-8021 E-mail : zsk@sjc.ne.jp

★ご購入は、全シ協会員専用ページの「頒布物の購入申込み」メニューからお申込みください。

★個人でのご購入は、冊数、お名前、郵便番号、住所、電話番号を明記した FAX・電子メール・郵便ハガキでお申し込みください。

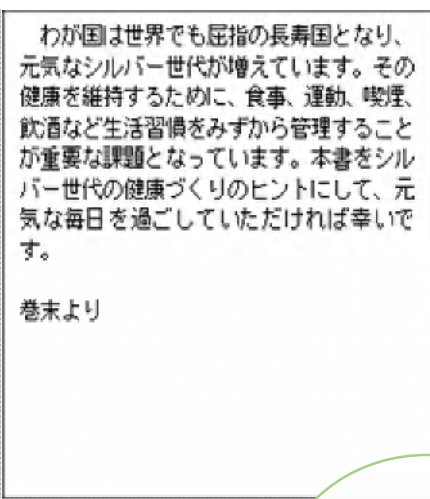
★仕様・価格等、予告なく変更する場合があります。

編集後記

毎年、寒暖差の大きいこの時期になると風邪をひいていましたが、昨年に続き、今年も大丈夫。考えるにもう2年くらい風邪らしい風邪もその他の病気も縁遠くなっています。これも友人との会食も、これといった不摂生もしていないせい？新型コロナウイルス感染症が騒がれて二度目の冬。この2ヵ月は感染者数も激減しましたが、第六波は訪れるのでしょうか、昨シーズン、インフルエンザの感染者が極端に少なかったので、今年は集団免疫が形成されていないと考えられ、こうした状況下でウイルスが海外から持ち込まれると、大きな流行を起こす可能性もあり、日本感染症学会では、積極的なワクチン接種を推奨しています。自分だけは大丈夫とは思わず、高齢者だという自覚をもって、万全の感染予防対策を取るとともに、新しい生活様式にも慣れるようにしたいと思います。秋から冬へ向かい、日差しの暖かさを実感するこの季節、会員みなさまは、常に健康第一で過ごせますように。(松山)

皆様のご先祖のお墓はお近くにありますか？私事ですが、今年はお墓参りに行く機会が多かったせいもあり、自分が亡くなった後のことを心配したり、お墓の場所や形などが気になったりいろいろと調べたりもしました。先月、義母を納骨するために北海道へ行きましたが、その地域によって納め方が異なることも知りました。生きているうちに意志を示している場合はいいのですが、故人の思いを想像して自分達で決断し進めることはなかなか難しくもあり、使命感を感じたりもしました。親戚たちとのかかわりもあり思うようには行かないこともありましたが、人それぞれのタイミングで気持ちは変わるものです。今回のことは結果的にベストの選択ができたと思っていますし、義母のお墓参りでこれからも毎年北海道にいけることは楽しみでもあります。いない寂しさはつるばかりです。(高木)

シルバー世代の健康管理



A5判 40 ページ 2009(平成21)年2月発行 以降、増刷対応
(10都以上からの販売)
価格 293円(税込)、送料実費



「いつまでも
働く喜び 無事
故から」安全就業
スローガン